令和７年９月

四日市市幼児教育センター

センターだより はぐくむ

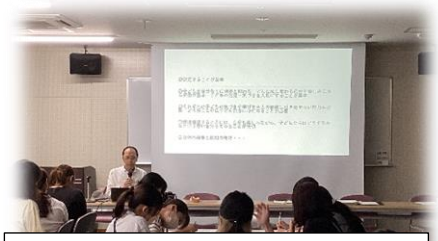
夢と志を持ち、未来を創るよっかいちのこども

四日市市幼児教育センターＨＰ
連絡先　059-333-6002

3032 保育力アップ研修ミニ公開保育を9月12日実施しました。

今年度は、保育力アップ研修として「０歳児１歳児のミニ公開保育」を通して、参加者が小グループに分かれてワークショップを行い、自身の保育を振り返りこどもたちの遊びや環境について考える機会となりました。

０歳児・１歳児を担当している四日市市の様々な施設の方が参加し、活発に意見を交流しました。こどもが、保育者やこども同士の中で豊かに育っていくことをミニ公開保育や事後研修を通し、学びあいました。



写真は、事後研修の様子
中部学院大学
教授　西垣　吉之先生講演より

保育参観後は、４～５人の小グループに分かれ、こどもの姿や環境について意見を交流しあいました。代表のグループがグループワークの内容を報告し、中部学院大学教育学部子ども教育学科教授西垣吉之先生よりご講演いただきました。今日の保育場面を振り返り、動画や写真を交え、「人生を生き抜く基盤には、人から愛される体験・人から愛されることにより気持ちが満たされる経験が求められる」など、こどもたちにかかわるうえで大事にしていきたいことをお話しいただきました。

～９月１２日実施の保育力アップ研修アンケートより～

＊心地よい環境のあり方として、心地よい物的環境と人的環境の大切さを改めて学ぶ事が出来ました。安心できる保育者の存在で子どもたちの好奇心が育まれ、生き生きとした姿で自らの育ちにつながっていくことを目のあたりにしました。そのためには、保育者がその子を知る事が大事になると思います。

＊先生が言われた「是非ワクワクしながら環境を準備してほしい」という言葉に、確かに毎回ワクワクする事を思い返し、ヒットしなくてもじゃあ、次はどうしようかと考える事が楽しいと感じている自分に気づきました。この先も保育者も一緒に楽しんでいける環境を工夫していきたいと思います。

＊0、１歳児は人生の基盤になる大切な時期だということを改めて実感しました。保育者の温かいかかわりを通して、人とかかわることが心地良いと感じることを大切に保育していきたいと思います。

＊こどもの安全を守るために、マットがずれたらすぐに直すことも大切な援助だけれど、ずれたマットを見て、こどもたちはどんな動きをするのか、どんなことに気づくのかを待ってみることも大切なのだと気付かされました。こんな力がついてほしいという保育者のねらいも必要ですが、子どもの気づきから保育を展開できる人でありたいと思いました。

令和7年度

公開保育（研究）実践検討会参加者を

お待ちしています

「日々の保育生活は、どこにそのような重要な意味があるのかも分からないような、小さなことの連続である。しかし、よく見ると、そこには、日々、異なった状況がある。その状況をどのように読み取り行為するかは、保育者に与えられた高度の専門的課題である」

～津守真「保育者の地平」ミネルヴァ書房より

こどもを理解しよう

小学校との接続

こども主体の保育を考えよう

遊びの充実って

11月14日（金）10:00～

第1ブロック・北部　認定こども園海蔵幼稚園

第2ブロック・中部　認定こども園フジ保育園

11月21日（金）10:00～

10月29日（水）10:00～

第3ブロック・南部　笹川保育園

グループワークで、公開保育を振り返り、保育のプロセスを語りあいましょう